



バーナコントローラ

MDC-303M

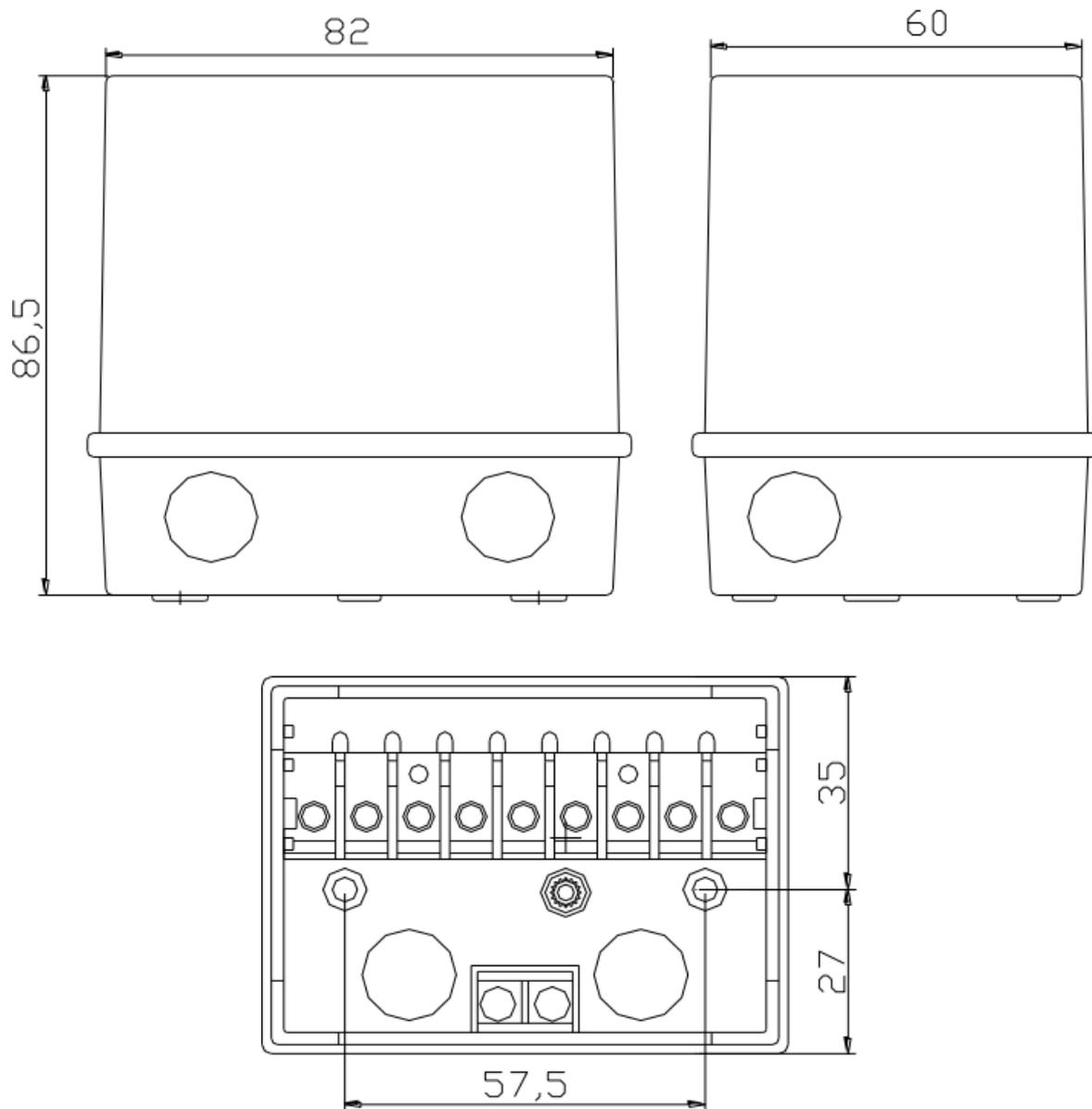
仕様書



**コロナ株式会社**



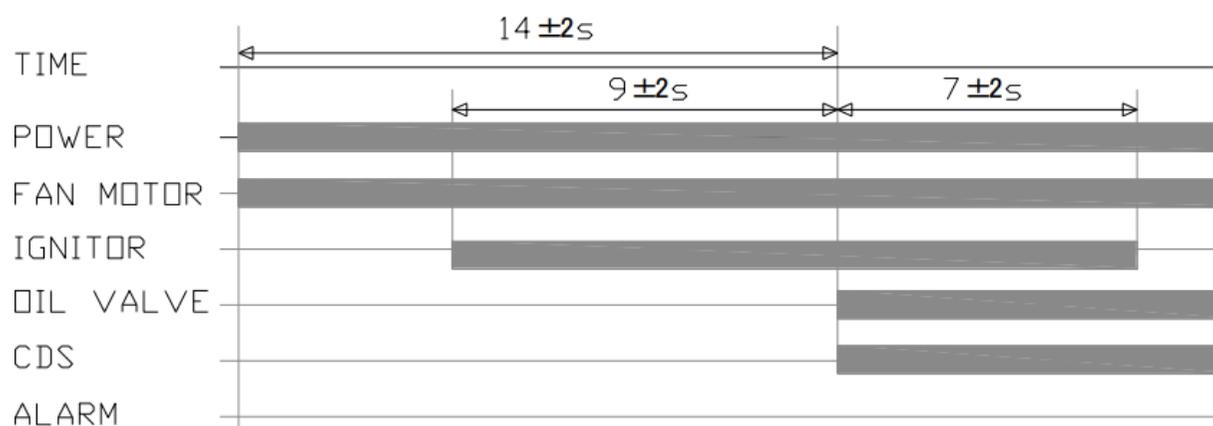
# 外形図



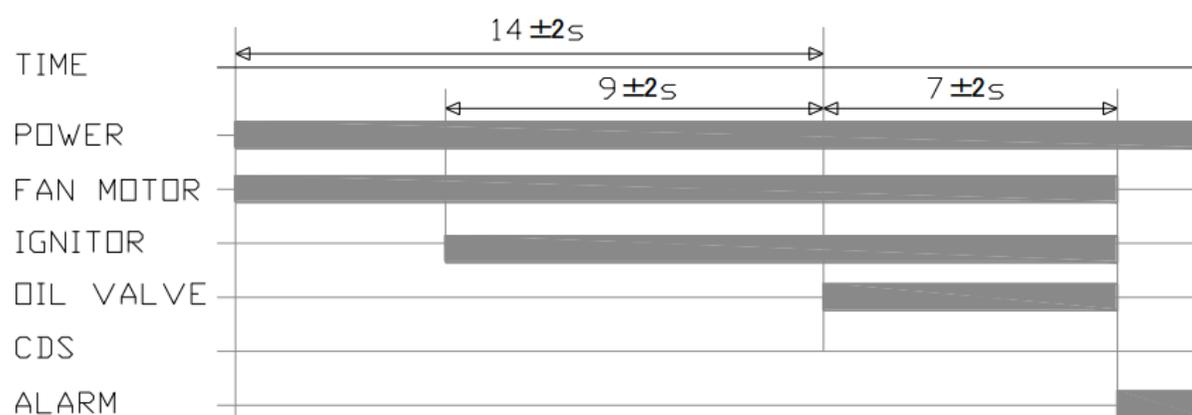
ケース材質は難燃性ABS

## タイムチャート図

### 正常動作



### 不着火時



## 取り扱い説明

### 配線

- (1) 機器への配線は 5 ページの「結線図」を見ながら間違いのないよう確実に行って下さい。
- (2) 火炎検出器に配線される電線は、他の負荷に配線される電線とは極力離して下さい。

### 火炎検出器

- (1) 火炎検出器(Cds フレームアイ)は必ず本装置専用のもの(型式 C-3)をご使用ください。他の火炎検出器をご使用になりますと誤動作などの恐れがあります。
- (2) 火炎検出器は外部からの光が入らない場所、また炎に近すぎないように取り付けて下さい。
- (3) 点火トランスの高圧側と火炎検出器は 10cm 以上離して下さい。火炎検出器にスパークが飛んだ場合、内部回路が破損する危険性があります。
- (4) 火炎検出器の感光面を、長時間直射日光に当てないようにご注意ください。

### 運転

- (1) 電源を投入する前に必ず正しく配線されていることをお確かめください。間違った配線のまま電源を投入すると、バーナコントローラが破損したり事故の原因となります。
- (2) 試運転時には必ず消炎状態(例: 燃料を遮断する等)を作り、警報(安全スイッチ)が動作するかご確認ください。
- (3) 高温多湿な場所、及び雨水や直射日光の当たる場所に取り付けないようにして下さい。故障の原因となります。
- (4) 電源を切って再投入するまでの時間は必ず 2 秒以上取って下さい。
- (5) 電源は規定電圧の 85～110%の範囲でお使い下さい。この範囲を超えて使用すると故障の原因となります。

### 保守

- (1) 長期間使用していると、火炎検出器にスス等が付着し着火検出感度が下がることがある為、火炎検出器は半年に 1 度以上点検を行い正常に取り付けられているか確認し、表面にスス・ゴミが付着していた場合はよく拭き取って下さい。
- (2) 運転中に警報(安全スイッチ)が動作した時は、電源を切ってその原因を確かめ必要な処置を行った後、電源を入れてからリセットボタンを押して再起動して下さい。
- (3) 点検は装置を熟知している人が行って下さい。

## 動作説明

### 安全起動(セルフチェック)

装置の起動時に火炎検出器が燃焼室内で炎や炎以外の光を検知した場合、装置を運転せず警報を発します。

### プレパージ動作

電磁弁を開く前にバーナモータを運転させ燃焼室内の未燃焼ガスを排出します。

### プレイグニッション動作

起動操作より一定時間経過後スパークを開始し、スパークの安定後に電磁弁を開き着火するまでの動作です。

### 不着火時の警報(安全スイッチ)

プレパージ動作後、着火しなければ運転を停止し警報を発します。

### ポストイグニッション動作

バーナが着火した事をフレームアイが検知した後も一定時間スパークを持続し燃焼を安定させます。

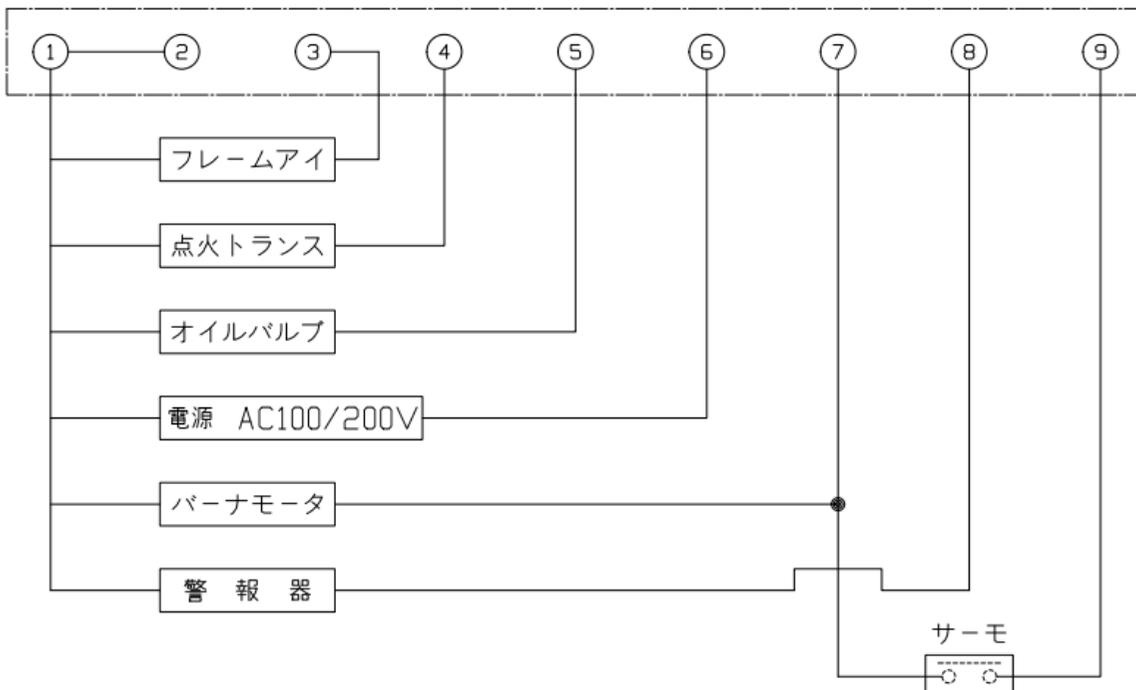
### リセット動作

警報動作後リセットボタンを押すことにより、プレパージからシーケンスを再起動します。

### 定常燃焼中の断火

正常動作の定常燃焼となってから断火した場合は、電磁弁は閉となり再び再点火の動作に移行します。

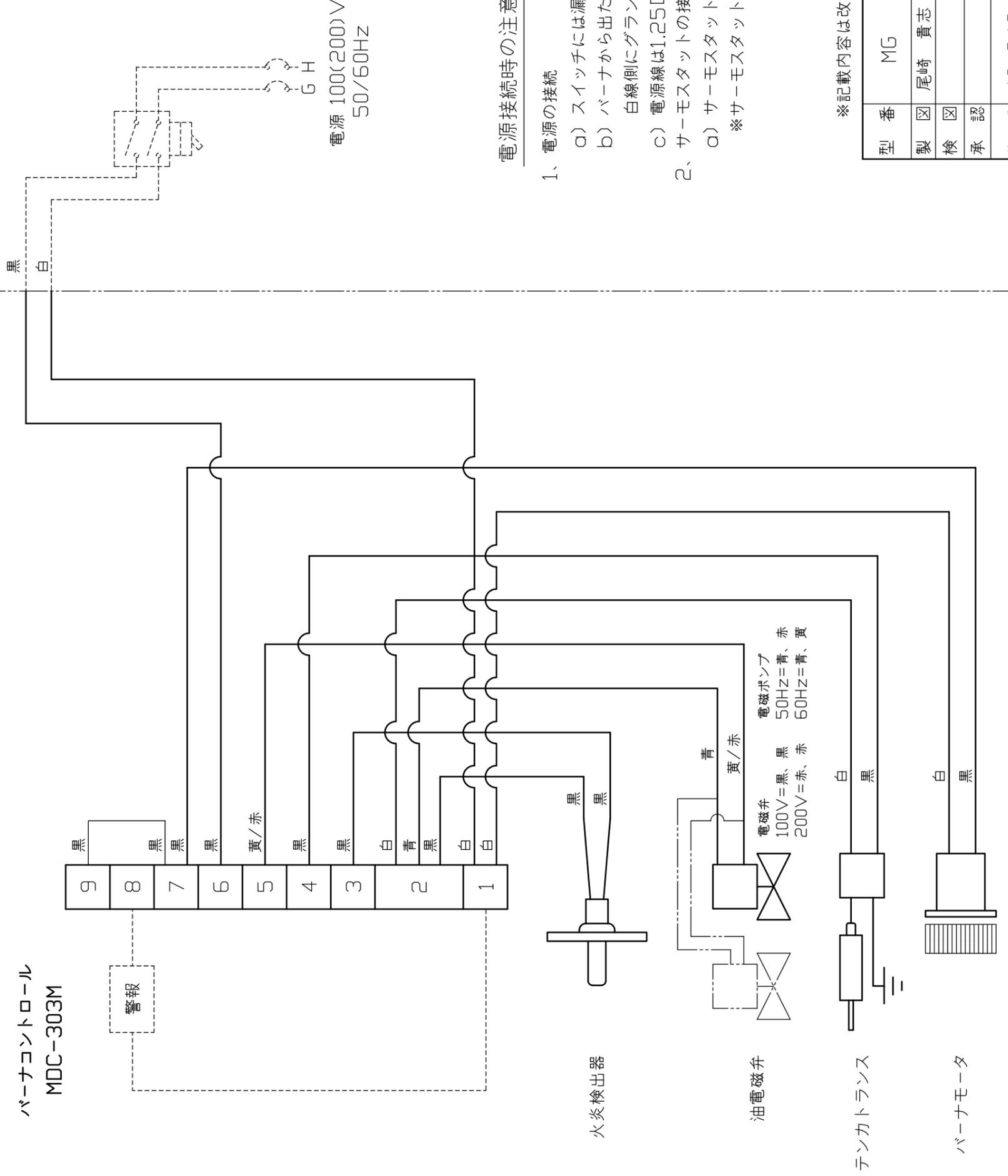
## 結線図





来歴	年月日
△	・
△	・

バーナコントロール  
MDC-303M



電源 100(200)V  
50/60Hz

電源接続時の注意

1、電源の接続

- a) スイッチには漏電ブレーカを設置して下さい。
  - b) バーナから出た黒線側にホットライン。  
白線側にグラウンドラインを接続して下さい。
  - c) 電源線は1.25mm以上を使用して下さい。
- 2、サーモスタットの接続 (サーモスタット使用の場合)
- a) サーモスタットの接続は ⑦ ⑨ の短絡線を外し接続して下さい。
- ※サーモスタットの接点は無電圧接点を接続して下さい。

※記載内容は改良のためお断り無く変更する場合があります。

型番	MG	名	バーナコントロール付タイプ	MDC-303M
製	尾崎 貴志	称	配線系統図	
検		尺	NON	EA822061
承		度	番	／
作成	10. 3.19			